

令和6年度一般会計予算

原案どおり可決
賛成8名 反対4名

(万円)

会計区分	令和6年度 予算額	令和5年度 予算額	前年度比
一般会計	86億6,800	84億9,300	2.1%
特別会計	国民健康保険	12億7,900	13億 600 ▲2.1%
	後期高齢者 医療保険	2億1,100	2億 400 3.4%
	介護保険	12億 750	11億9,640 0.9%
	水道事業	4億5,510	6億 500 ▲24.8%
	下水道事業	6億2,360	6億6,280 ▲5.9%
6会計予算合計	124億4,420	124億6,720	▲0.2%

○詳しくは、広報しみず4月号をご覧ください⇒



3月定例会の流れ

令和6年第2回定例会は、3月6日から19日までの14日間の会期で開かれました。

初日 (3/6)

一般質問 (3/11~12)

予算審査特別委員会 (3/6~18)

最終日 (3/19)

討論がありました

西山 輝和 議員

原案に賛成

老朽化したインフラ整備への対応、更には物価高騰等により財政が厳しさを増していく中、安心安全な暮らしと生活のための医療、福祉、子育て、教育施策、経済対策や産業構造の維持を着実に進めるとともに、定住促進、魅力の発信課題などそれぞれの行政課題に対応している。

また、日々変化する社会状況をとらえた脱炭素社会実現に向けた取り組み、デジタル技術を活用した取り組みについても盛り込まれており、評価するものであるので、原案に賛成する。

川上 均 議員

原案に反対

物価高騰の中で町の優先課題は限られた財源を適切に配分し、事業の重要度、緊急度を見極め、住民の生活を守る政策にまずは取り組むことである。

空き家対策の早期検討、地域活性化交流施設整備補助金・地域おこし協力隊支援業務・求人支援サイトシステムなどの事業への懸念、商工業の振興事業の見直しへの疑問などがある。また、国保税や介護保険料を引き上げる中で、低所得者に対する施策や農業者への物価高騰対策が見られないので、原案に反対する。

中島 里司 議員

原案に反対

令和6年度予算について、町政の流れが町民の福祉向上のためということを強く感じることで、不透明であった。また、財政が厳しくなってくるから町民に我慢してもらうところでは我慢しても、今回はいま少し我慢しても良いのではという案件が何件も見られた。個別の指摘はしないが、予算案全体を通してそのような感じがあるので原案に反対する。

鈴木 孝寿 議員

原案に反対

特別会計において負担があった部分をカバーする町民への何らかの軽減措置の部分が残念ながら見当たらなかった。今後さらなる負担増が見える中で、これまでの町民への説明は本当に果たされていたのか。

特に国保会計の急激な負担増は結果的に町民に負担を押し付けるといふ判断となっており、これまでのプロセスにおいて反省を求めるものである。また、基幹産業である農業への予算付けを含め、根幹となる重要事項への配分が見られないので、原案に反対する。

予算審査特別委員会審議等を研鑽していきます

予算審査特別委員会開催中、「予算に計上されていない項目」と委員長が判断した質疑への発言について、委員会の中でその是非をめぐる議論する場面がありました。

その後、その発言は削除されましたが今後も同様の事態が生じないように、議事運営に関し研鑽を積み、各議員の認識の統一を図っていきます。

一般会計予算に対する質疑

清水町議会
YouTube
↓



3月13・14・15・18日の4日間の予算審査特別委員会における質疑の中から費目別にピックアップしています。

※質疑と答弁は要約されています。詳しい内容は YouTube から見ることができます。

総務費

Q 廃屋解体撤去事業補助金について、本来は建て替えのための補助は目的外のためできないとされていたができるようにした理由は。

A ここ数年、補助を受け解体を望む方が増え、空き家も目立ってきているところであり、実態に合わせて又町民からも要望があるため制度の改正を行ったところである。

Q 地域活性化交流施設整備補助金に、どういう計画が出ているのか。事業計画書が出た上で、1,000万円の補助金が策定されたのか。

A 事業計画書の詳細はもらっていないが、概要として、17室ある部屋を改修しながら、下宿として4部屋、合宿施設として9部屋の内部を修繕したうえでそれぞれ受け入れするものである。

Q 子育て移住体験事業（保育園留学）について、今年は予定者が21人で増えるのは良いが、保育士が足りなくぎりぎりで行っている中、実際受け入れできるのか。

A 4月や5月、3月の卒園式の時などは現場の状況を参酌して受け入れを実施していない。一時保育の枠が5人と決まっている中で、5人中1人の受け入れで実施している。現場の負担にならないような形で実施している。

Q 交流事業ということで、東京都北区の子どもたちが来るということだが、埼玉県深谷市とはどのような交流をしていくのか。

A 深谷市からは、議会議員の皆さんに来ていただいた経緯もある。できれば深谷市の子どもたちも清水町に来てもらえるように話をしている。

民生費

Q 子育てサポート助成について、保護者の労働多様化による保育時間や休日の預かり体制の充実ということで、色々な条件があると思うが、どのようなものなのか。

A 会員になれば誰でも使える制度。例えば、農繁期の時に日曜日預かりの申し込みや、仕事が遅く19時以降の預かりなどに対応して利用が増えている状況である。

Q 保育施設給食調理業務委託料について、もう少し地元の食材を使ったり、冷凍ではなく新鮮な食材を使って提供できないのか。

A できる限り旬の物は清水町の食材を使うよう努力をしている。流通があるので、冷凍の食材の方が鮮度良く届くということもある。月に一度給食会議を開いて、委託業者とこども園と子育て支援課で情報共有をしながらより良い給食の提供に努力している。

